

【団体支援寄附】

—全10事業（8団体）—

特定非営利活動法人 国際交流ならふれあいの会

奈良市法蓮町985-6

【事業名】

NaFu! チャリティーコンサート

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

スリランカに2基目の井戸を贈るためのチャリティーコンサートと、地域連携イベント（音楽の贈り物・子供のためのコンサート）を実施しました。

イタリア人ピアニスト ルイジ アンジェロ マレスカ氏、ソプラノ歌手 山本隆子氏、フルーティスト野原剛氏による、イタリアオペラ音楽を多くの市民や子供たちに身近に体感してもらい、国際理解、助け合いを促すことができ、国際的な文化活動及びグローバルマインド育成を相乗させる教育的なコンサートとなりました。コンサートはレクチャー方式で実施し、音楽をより楽しく学べる機会となりました。また、スリランカ支援パネル展示や、スリランカと日本の橋渡しをされているダンミカ長老も参加され、広く支援を呼びかけました。

今後の活動に向けて

今後は当会の活動の3本柱である、ホームステイの受入、青少年夢支援、国際理解協力を行い、社会・地域連携による国際交流の促進と共に国際感覚を養い、日本文化の再認識や知的好奇心の向上に寄与する活動を継続して行っていきます。



▲コンサートの様子

特定非営利活動法人 奈良県不動産コンサルティング協会

奈良市朝日町1-3-5

【事業名】

不動産の無料相談会

【補助金額】

58,900円

補助事業の実施内容

不動産無料相談会を平成29年6月と7月に県内7会場で開催し、72組の多様な案件に対応し問題解決の助言ができました。相談内容は相続・贈与関係が20件、売買が17件、税金関係が9件、登記関係が8件等々の順となりました。

今後の活動に向けて

不動産（土地・建物等）に関する諸問題をかかえた方々に対して会員の不動産コンサルティングマスター・弁護士・税理士・司法書士・不動産鑑定士・土地家屋調査士等がボランティアで問題解決に向けたアドバイスを続けて行きます。

今後とも不動産に関する諸問題（空地・空家等）は多岐に渡り複雑化し、山積する傾向にあります。こうした問題の解決策は各分野のスペシャリストが協同で対応することが望まれます。しかし、この為には資金面等で労苦がありますが、NPO法人の理念に基づき活動を継続するよう努力します。



▲相談会

【事業名】

- ① 引退補助犬への介護用品支援事業
(介護服の支給)
- ② 引退補助犬支援活動の啓発事業

【補助金額】

- ① 4,750円
- ② 57,000円

補助事業の実施内容

引退した補助犬たちの医療費支援や介護用品支援(介護ベルト、おむつ、ペットシートの支給、スロープやカートのレンタル等)を行っており、この度助成金により介護服を購入し、2頭の引退犬に支援することが出来ました。また、啓発活動として会報53号を作成し関係者等へ配布しました。

今後の活動に向けて

今後も、引退した補助犬たちのために啓発活動(街頭募金・イベント参加、会報発行等)にも力を入れ、一人でも多くの支援者を募り、人間の為に働いてくれた補助犬たちに医療費や介護支援が行えるように頑張りたいと思います。



▲冊子発送の様子

【事業名】

- ① 第9回町家の案山子めぐり
- ② 第12回町家の雛めぐり

【補助金額】

- ① 190,000円
- ② 285,000円

補助事業の実施内容

高取町土佐街なみ一帯の商店や町家及びイベント会場等に町家の案山子や雛人形を飾って観光客に住民との交流を楽しんでもらうイベントで色々な体験し、メイン会場周辺は花の寄せ植えを飾り早春を体感してもらいました。



▲案山子めぐり

今後の活動に向けて

①平成20年度より、自然減少に社会減少が加わり加速度的に人口減少が起こっています。自然減少は日本全体の潮流で、歯止めを掛けるのは困難であり、社会減少に歯止めをかける施策、転出の減少と転入の増加を講じる必要があります。都会のアクティブシニア転入の促進策として、高齢者住民主導のイベント開催の果たす役割が期待されます。

②平成19年より、高取町のシニア住民の力と土佐街道沿いの歴史的景観を活用して3月の1ヵ月間「町家の雛めぐり」を開催し、観光客を呼び込み、地域活性化の取り組みを続けてきた結果、商店の廃業に歯止めが掛かり、高齢者の生きがい創出等福祉的效果がみられるようになってきました。このイベントを続けることにより「高齢者が光り輝く高取町」としての認知度が上がり、都会のアクティブシニアの終の棲家として高取町への移住の促進に繋がりたいと考えています。

特定非営利活動法人奈良県レクリエーション協会

大和郡山市田中町125番地

【事業名】

「県レクニュース」の発行

【補助金額】

95,000円

補助事業の実施内容

当協会の活動実施状況やこれから事業を実施する地域活動・イベント活動等の情報を広報するため、レクリエーション関係者、奈良県レク協会の団体会員、個人会員、日本レクリエーション協会の公認指導者、奈良県下の関係団体、協賛企業等、またレクリエーションに興味を持たれる一般県民にも配布し、奈良県レクリエーション協会の活動を県レクニュースの発行により広く周知しました。10月号は7月～9月にかけて実施した事業、イベント等を掲載し、また10月以降に行われる事業予定も掲載しました。2月号については、10月から翌年の1月に実施した事業、イベント等の内容及び今後の事業予定も掲載しました。

今後の活動に向けて

より多くの人々にスポーツ・レクリエーション活動を楽しむ機会を提供することを目指します。そして、これまで以上に奈良県関係部課や県下各市町村との連携を深め、とくに子どもや高齢者を対象とした福祉関連分野及び地域の関係団体、指導者、専門家等の人達との連携促進を進め、公益性の高い事業を実践します。そのため、会員はもとより、レクリエーション活動を担う人材の拡充・育成事業を強化し、各々スキルアップを図り、更により良い市民サービス型事業を展開していくよう努めて行きます。



▲レクリエーション活動

特定非営利活動法人学校図書館木質・活性化支援センター

磯城郡田原本町金剛寺451-2

【事業名】

学校図書館に奈良県産杉材を使用した本立てを寄贈する事業

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

県産材（十津川産杉材）の端材を利用して面展台（ブックスタンド）をオリジナルで作成して奈良県内の小中学校の図書館に寄贈しました。

私達のNPO法人では、木材を加工する時に出る端材を使って学校図書館の木質化ができないかと考えています。建材としては利用しにくい節のある木材も本立てになると味のあるアクセントに活かすことができます。この事業で作られた本立ては、総て学校図書館で子ども達に本の魅力を伝えるために使われています。



◀出張木質図書館

今後の活動に向けて

ブックスタンドは木材の端材を有効利用することになり、杉材の木目の美しさ、香りの良さ等の特性が図書館展示のアクセントになっています。

学校図書館の読書活動への支援活動としては、スタッフの半数が学校図書館関係者と言う強みを生かし、各学校のニーズに合った支援（図書館改造、図書館経営アドバイス、読書活動への協力）を行います。

子どもたちの読み聞かせ活動支援としては、杉材を使った大型本棚と同じ床材のパネルセットで「出張木質図書館」を作り大型スーパーや信用金庫店舗、小学校の図書室などで読み聞かせを行ってきました。

今後は学校の要望を聞きながら、学校図書館の木質化また読書支援についての支援を行っていききたいと思います。

【事業名】

里親家庭や児童養護施設等退所後支援についての啓発事業

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

里親家庭や児童養護施設等退所後の支援について啓発するとともに、当事者にとって使いやすく、困った時にすぐ支援につながるよう、携帯電話からも使いやすいホームページを制作しました。

今後の活動に向けて

ホームページを制作し、リアルタイムで情報発信できるようになったことで、多くの方に当団体の活動や支援の必要性等を啓発でき

るようになりました。また、携帯電話からも使いやすくなったことで、これまで以上に当事者にとって使いやすく、支援につながりやすくなりました。今後は、さらにこまめに情報発信をし、里親家庭や児童養護施設等退所後の支援について啓発するとともに、当事者となつながら、支援の向上に繋げていきたいです。



▲制作したホームページ

【事業名】

DVのない社会づくり推進事業

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

DVの問題を「被害者支援・加害者更生・予防教育」という3方面からのクロストークを実施し、全国的にも先駆的な企画となりました。県や各市町村の担当課職員、相談機関のスタッフ、また被害当事者等約100人が参加しました。

具体的なDVの話ということで、たいへん厳しくつらい内容もありましたが、DVの問題に長年誠実に取り組んできたゲストの話を聞きながら、「DVに苦しんでいるのは自分一人ではない」という思いが共有でき、県内外でDVの問題に関心を持つ人のあらたな出会いの場となりました。参加者全体が今後DV問題解決に向けて取り組むためにすべきことがあるという新たな希望も感じられる有意義な学習機会となりました。

会場では障害のある若者に向けて作成した、デートDV予防啓発リーフレットを参加者に配布しました。

今後の活動に向けて

「DVのない社会をつくりたい」「あなたは悪くありません。一人で悩まないで」そう願って活動してきた私たちですが、どうすれば被害に苦しむ人たちに声が届くのか、ずっと考え続けてきました。今回の企画に当事者や支援者、行政職員など各方面のみなさんの参加があり、またその中で新たな課題として、加害者と離れて何十年も経ってなおPTSDに苦しむという実態や、子どもへのケアの機会がないこと等が明らかになりました。今回参加してくださったみなさんとの出会いを大切にしながら、被害当事者に対する長期的な支援や、子どもへの支援の必要性などをさらに多くの方に知ってもらい、ネットワークの中で取り組みが広がるよう努力を続けたいと思います。



▲クロストーク